

No. 03

総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：亀城公園

院内探訪：オークラ カフェ&レストラン「メディコ」

かけはし：小原内科医院



特集：消化器外科 -あきらめない外科治療を行います-

消化器外科

あきらめない外科治療を行います

消化器とは

私たち人間は、植物や他の動物を食べ、それらを消化・吸収することでエネルギーを生み出しています。身体の成長や、健康を維持するために必要な栄養素も、それらの食物から補っています。

その働きを担うのが消化器系といわれる臓器です。食道や胃、腸などの消化管と、肝臓や胆のう、膵臓などの付属器官で構成される消化器系は、私たちの活動や成長を支える「体内のライフライン」といえます。

消化器外科の役割

消化器外科は、それら消化器系が病気になるってしまったとき、主に手術によって治療を行う診療科です。

土浦協同病院の消化器外科では、鼠径ヘルニア・虫垂炎・胆石症といった良性疾患から、食道・胃・大腸などの消化管、肝臓・胆のう・膵臓3領域の悪性腫瘍まで、消化器全ての手術を行っています。

また、救命救急センターを

もつ当院では、急性腹症や腹部外傷などの緊急手術への対応も積極的にを行っています。

「あきらめない外科治療」で地域に貢献する当院の消化器外科を紹介します。



腹腔鏡手術の様子



01

緊急手術をあきらめない



救命救急センターには、様々な不調を訴える患者さんが訪れます。そのなかでも「腹痛」を主訴に来院される方は、少なくありません。ほとんどは軽症ですが、なかには「急性腹症」といって、緊急手術が必要になる場合があります。また、交通事故などによる「腹部外傷」への対応も消化器外科の役割です。救急集中治療科をはじめとする各診療科と連携をとり、24時間体制で患者さんの迅速な救命に努めています。

緊急手術件数

2014年実績

234 (件)

2015年実績

298 (件)

2016年実績

237 (件)



02

負担軽減をあきらめない

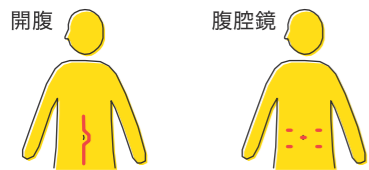


腹腔鏡手術とは

体に1～3cmの穴を開け、内視鏡を腹腔内に挿入し、テレビモニターに映し出された患部を見ながら行う手術。

メリット

- ・手術跡が小さく済む
- ・術後の痛みが少なく、回復も早い
- ・早期退院、社会復帰ができる



開腹に比べ手術跡が小さく、年月が経つとより跡が目立たなくなる。

デメリット

- ・手術の難易度が高い
- ・開腹手術よりも合併症の頻度が高い
- ・病状によっては適応できない

手術は患者さん一人ひとりの症状や背景など、様々な因子を考慮して行われます。お腹を開く開腹手術は、長い歴史のなかで確立された術式ですが、体への負担が大きいデメリットがあります。当院では患者さんの負担軽減に効果的な「腹腔鏡手術」を積極的にを行っています。



がん治療を
あきらめない

全ての消化器をカバー

当院の消化器外科が行う手術の割合で、最も多いのが「がん」です。土浦協同病院では、全ての消化器をカバーしています。また、それぞれの領域に専門の医師がいることが特徴です。

☑ 治療法アイコンの見方

- 手**・・・手術
- 化**・・・化学療法（抗がん剤治療）
- 放**・・・放射線治療

☑ 胃がん治療の特徴

腹腔鏡手術

多くの経験による技術の高さが特徴。難易度の高い腹腔鏡下胃全摘術に用いる専用器具も当科で開発。

化学療法との併用

術前術後に化学療法を実施することで手術の根治性向上に貢献。

胃疾患外来

胃疾患を専門とする外来を実施。

大腸がん

治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開腹 内視鏡 腹腔鏡**

盲腸からS状結腸までの結腸、直腸を含む全ての部位で腹腔鏡手術を実施しています。当院の大腸がんの手術も、近年は半数以上が腹腔鏡によるものです。また、直腸がんにおいては、根治性を見極めたうえで、可能な限り自然肛門を残す手術を心がけています。治療には、大腸肛門病の専門医を中心としたスタッフ構成であっています。

☑ 特徴的な症状

- ・血便が出る
- ・下痢、便秘など繰り返し便秘状態が変わる
- ・腹痛、腹部膨満感
- ・急激な体重の減少

- 盲腸
- 上行結腸
- 横行結腸
- 下行結腸
- S状結腸
- 直腸

食道がん

治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開胸開腹 内視鏡**

当院の食道がん治療では、消化器外科のみではなく様々な診療科の医師、メディカルスタッフが関わることで質の向上に努めています。また、県内では唯一の食道外科専門医認定施設（※2017年8月現在）に指定されています。がんの進行度に応じた集学的治療（手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた治療）を積極的に行っています。

☑ 特徴的な症状

- ・食べ物のつかえ感
- ・声のかすれ（リンパ節転移）

☑ 発生リスク

- ・タバコ
- ・飲酒

胃がん

治療法 **手 化** | 適応術式 **開腹 内視鏡 腹腔鏡**

胃がんの治療法は、がんの進行度によって決まります。内視鏡治療は消化器内科にて行われており、その適応から外れる早期がん、進行がんが消化器外科の対象となります。当院では手術の8割が腹腔鏡によるもので、内視鏡専門医を中心としたチームで治療にあたっています。これまで15年以上、1,000例を超える鏡視下手術を行ってきました。

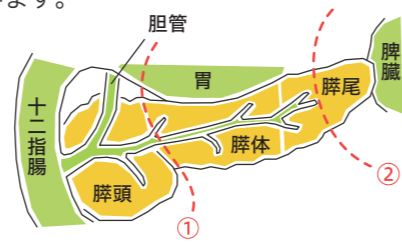
膵臓がん

治療法 **手 化** | 適応術式 **開腹 腹腔鏡**

膵臓がんは早期の診断が難しく、多くは進行がんの状態で見られます。治療はがんの進行度によって異なりますが、外科手術と化学療法を組み合わせた治療を行います。手術はがんの発生部位によって変わります。

① 膵頭十二指腸切除

膵臓の右側（膵頭）にできたがんは、十二指腸、胆管、胃の一部までの切除が必要です。体の負担が大きい手術ですが、当院は県内でも有数の手術症例数を誇っています。



② 尾側膵切除術

膵臓の左側（膵尾）にできたがんは、膵臓の尾側と膵臓の切除を行います。

肝臓がん

肝臓がんは以下の通りに分類されます。

① 原発性肝がん

肝細胞がん → 治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開腹 腹腔鏡**

肝臓がんの多くは肝細胞がんで、B型・C型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変を基盤に発症するケースが多くみられます。他の治療法としてがんを焼却して死滅させるラジオ波焼却療法、がんに栄養を送っている動脈を詰める肝動脈塞栓療法があります。

胆管細胞がん → 治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開腹**

発生頻度は低率ですが、肝細胞がんよりも予後は不良で、ラジオ波焼却療法や肝動脈塞栓療法は適応にならず、外科的切除（手術）が根治の期待できる唯一の方法になります。

② 転移性肝がん

治療法 **手 化** | 適応術式 **開腹 腹腔鏡**

他の臓器からがん細胞が転移して発症するがんで、主に胃、大腸、膵臓からの転移が多くみられます。

胆のうがん

治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開腹**

胆のうがんの治療で最も根治性が高いのは手術です。進行度により胆のう摘出術で済むものから、膵頭十二指腸切除、肝切除を含むものまで様々です。

胆管がん

治療法 **手 化 放** | 適応術式 **開腹**

胆管は肝臓から十二指腸にいたる胆汁が流れる管です。胆のうがんと同じく、発生する部位によって肝切除や膵頭十二指腸切除といった手術が必要となります。手術が困難な場合でも、化学療法や放射線治療を組み合わせた治療を行います。

☑ 特徴的な症状

- ・黄疸（目や皮膚が黄色くなる）がでる
- ・尿が濃くなる
- ・便が白っぽくなる

② 尾側膵切除術

膵臓の左側（膵尾）にできたがんは、膵臓の尾側と膵臓の切除を行います。

胆のう管
総胆管

胆管

十二指腸
空腸
回腸

小腸

虫垂

食道

肝臓

胆のう

胃

膵臓

大腸

肛門



04

多くの経験と、
他科との強い連携が生み出す
「あきらめない外科治療」

interview

副院長 消化器外科部長 滝口典聡



■ 技術を支える豊富な経験

当院の消化器外科は食道・胃・大腸などの消化管から肝臓・胆のう・膵臓まで、「広く専門的に」カバーしています。これら消化器全ての良性・悪性疾患に24時間対応し、常に緊急手術が行える体制を整えています。実際、近年は年間1,000件を越える手術を行っています。その約3割を緊急手術が占めています。また、胃や大腸のがん治療では、積極的に腹腔鏡手術を実施しており、半数以上が腹腔鏡によるものです。

当院は平成4年に腹腔鏡下胆のう摘出術から始まり、平成14年には大腸、翌年には胃の腹腔鏡手術を実施しています。症例の蓄積が手術成績を高めます。通常、腹腔鏡は早期がんに実施され、進行がんに対しては臨床試験として実施するとされていますが、当院には、長年の豊富な症例の積み重ねがあるため、進行がんであっても、患者さんの病状や背景を考慮したうえで、負担軽減につながる腹腔鏡手術を選択する場合があります。例えば、審査腹腔鏡といって、腹

腔鏡を挿入した際に腹膜播種（腹膜に転移したがん細胞）があれば、そこで手術を終了し化学療法を行います。その後、再び腹腔鏡を行い、腹膜播種が消えていけばそのまま切除します。このように、難易度の高い高度進行がんで、癌種により化学療法が奏功し、がんのステージが改善して根治手術が可能になる、というケースは少なくありません。胃や大腸ばかりでなく、食道外科、肝胆膵外科でも、当院は茨城県でトップクラスであると自負しています。もちろん全てのがんが切除できるわけではありませんが、あきらめない外科治療を行うことをモットーとしています。

■ 連携が生む最善の治療

そのために必要なのは、診療科の壁を越えた連携です。化学療法においては、消化器内科がとてよくやってきています。当院の消化器外科と消化器内科は、非常によく連携がとれていて、これは私が土浦協同病院に来たときから変わっていません。放射線診断科もレベルが高く、診断能力の高さ、読影の早さ、血管造影での止血などで、私たちの手術を支えてくれます。この3つの診療科は、週に1回、合同でカンファレンスを実施し、

コンサルテーション（院内の患者紹介）にも、お互い積極的です。また、月に1回の合同カンファレンスではここに病理診断科も加わります。

私が外科医になった頃、大変お世話になった先生に「麻酔科医に足を向けて寝るな」と言われたことが今も記憶に残っています。今は麻酔科に限らず、様々な診療科・医療スタッフの助けによって自分たちの手術が支えられています。患者さんにとって最善の治療とは、こうした連

携によってこそ生み出されるのではないのでしょうか。

■ 一人ひとりにあわせたオーダーメイドな治療を

今後は、どこまでの手術をやるのか、その判断が重要になってくると思います。高齢化や世帯の変化が進むなかで、誰に対してもスタンダードな手術を行えばいいのか。そうではなく、患者さんやご家族と治療方針を相談し、患者さんの状態、背景

に即した治療、一人ひとりにあつたオーダーメイドな治療を行う必要があります。

消化器外科医の究極の目的はなにか。それは病気を患ってしまった人が、手術により再び「自分の家で、家族と楽しく、おいしいご飯が食べられるようになる」ことです。これにまさる喜びはありません。私たちは食べると元気になる。そのため、消化器外科医の使命だと思っています。

☑ topics 消化器外科の診療実績 (2016年)

食道癌手術	24例 (うちESD 8例)
その他食道手術	6例
鏡視下胃癌手術	93例 (うち胃全摘 31例)
開腹胃癌手術	20例 (うち胃全摘 5例)
その他の胃十二指腸手術	27例
鏡視下大腸癌手術	128例 (うち直腸癌 45例)
開腹大腸癌手術	61例 (うち直腸癌 13例)
胆嚢摘出術 (悪性疾患を除く)	156例 (うち鏡視下手術 111例)
肝切除術 (部分切除術)	19例 (うち鏡視下手術 3例)
肝切除術 (系統的切除)	15例 (うち鏡視下手術 3例)
肝門部胆管癌	5例
膵頭十二指腸切除術	30例
膵体尾部切除術	14例 (うち鏡視下手術 6例)
脾臓摘出	6例 (うち鏡視下手術 1例)
虫垂切除術	61例 (うち鏡視下手術 41例)
鏡視下緊急手術	39例
ヘルニア手術 (鼠径ヘルニア)	148例 (うち鏡視下手術 53例)
ヘルニア手術 (その他のヘルニア)	13例
上腸間膜動脈閉塞	2例
緊急手術	237例

総手術件数 1,066例

☑ curriculum vitae



滝口典聡 副院長 消化器外科部長

1985年東京医科歯科大学医学部卒業。1988年土浦協同病院外科医員、1990年東京医科歯科大学第一外科医員を経て1993年に再び土浦協同病院外科医員となる。2000年に同外科部長、2006年に同外科部長を歴任後、2014年4月より土浦協同病院副院長に就任。趣味はロードバイク。

医局 食道外科専門医
消化器外科科長 春木茂男

no.05



患者さんの病状にあわ
せた多角的な治療を

食道がんの多くは進行した状態で見つかります。早期発見に有効なのは内視鏡検査で、タバコを吸う方、お酒を飲んで赤くなる方は、検査の際、医師に相談してみるのもいいでしょう。

治療は、患者さんの病状にあわせて内視鏡切除、化学療法、放射線療法、外科手術を組み合わせた治療を行います。大切にしているのは、ス

勤続年数：10年 趣味：バスケットボール

ステージ0〜4bまでの一貫した総合的な診療と、他科や他職種との連携です。食道がんになると、食道が狭くなり嚥下に障害がでます。嚥下には歯も重要です。そのため、食道がんと診断された患者さんは、当院の歯科口腔外科に紹介し、歯の状態を診てもらっています。また、嚥下の訓練では、リハビリスタッフが力を発揮します。こうしたチームの力が、治療成績の向上に繋がっています。

no.06

医局 消化器外科 上田浩樹



地域からの信頼に
応えるために

伊東浩次先生のご指導の下、消化器のなかでも肝臓・胆のう・膵臓を専門とした肝胆膵外科疾患を中心に診療にあたっています。疾患として最も多いのは、胆のうに結石ができる胆石症です。胆石症に対する手術は、多くが腹腔鏡によるもので、患者さんの安全を第一に考えながらも、可能な限り侵襲軽減に努めています。肝胆膵のがん治療で

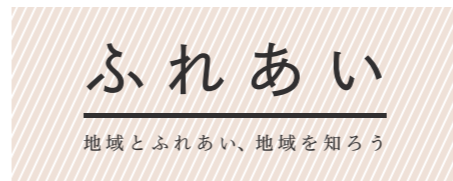
勤続年数：2年 趣味：スポーツ観戦

は、他科と連携し、患者さんの病状にあわせ、手術を含めた最も効果的と思われる治療法を提示しています。肝胆膵外科は、指導医の伊東先生を柱にチームで診療にあたっています。当院は肝胆膵疾患で受診する患者さんが多くいらっしゃいます。他院からの紹介も多く、地域からの信頼していただいている、という実感と共に、やりがいや責任を強く感じます。今後も知識や技術を磨き、地域の医療に貢献していきたいです。



亀城公園

茨城百景にも指定されている亀城公園は、土浦城の本丸と二の丸跡を公園として整備したものです。亀城とは、往時の城が何重もの堀に囲まれ、その様子が水に浮かぶ亀に似ていたことからきています。堀には今も水が湛えられていて、東の入り口になる霞橋の上からは、風情ある景観を楽しむことができます。現在知られている土浦城は江戸時代に整備されたものです。江戸中期以降に土屋氏が城主および土浦藩主となってからは、常陸国において水戸



亀城公園
茨城県土浦市中央1丁目13-48

藩に次ぐ領地の広さをほこりました。左の写真にある櫓門は、本丸にある江戸時代のものとしては、関東地方で唯一現存するもので、公園の象徴になっています。櫓の上に太鼓を置いて時刻を知らせていたことから、太鼓櫓とも呼ばれていました。園内には他にも、復元された東櫓・西櫓、土屋神社、県指定天然記念物のシイの木など様々な見所があります。また、春には桜の名所にもなり、市中の公園として多くの市民に親しまれています。



かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.05

小原内科医院

住所：茨城県土浦市中央2丁目4-31
電話：029-821-1015
診療科：内科、循環器内科
診療時間：午前／09:00～12:00
午後／14:00～18:00
休診日：木曜、土曜午後、日曜、祝日
その他：駐車場15台（無料）

ご挨拶
当院は地域の皆様のかかりつけ医として、内科診療所として地域医療に従事しております。昭和30年に父が当地に開業し、私は2代目として平成5年より内科、循環器内科を主として始めましたが、開業してみると様々な疾患の患者さんが来院され、いつも土浦協同病院の各科の先生方にお世話になり、ありがたく思っています。
真鍋地区に協同病院があったころは、ご近所でもあり、患者さんも私も安心でしたが、昨年おつ野に移転の際は遠方になるため、少し心配もしました。しかし、移転後、今までよりも病診連携がスムーズで、予約もすぐにとれ、診療結果のお返事もすぐ頂けて、大変感謝しております。移転後も安心で、患者さんの評価も良好です。
今後も地域医療に努めて参りますが、土浦協同病院との病診連携がこの地域の安心につながっております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

アクセスマップ



小原 芳道 院長



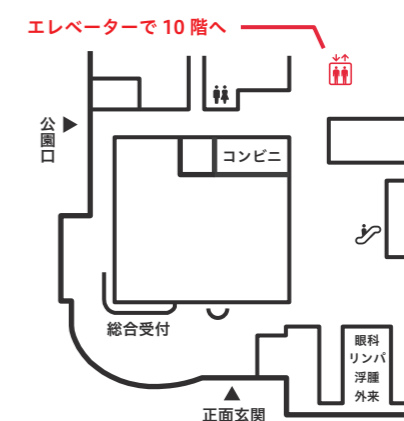
当院の10階にあるオークラカフェ&レストラン「メデイコ」は、(株)ホテルオークラエンタープライズが運営する院内レストランです。メニューは魚料理、肉料理、カレーやパスタ、サラダ、スープにデザート、和食まで取り揃えてあります。ドリンクのみのご利用も可能です。
また、当院の予防医療センターでは、人間ドック受診後に、メデイコにて週代わりのランチを提供しています。最上階からの素晴らしい展望と共に、おいしい料理をお楽しみください。



基本情報

場所：10階
営業時間
平日：11:00～19:00
(18:30オーダー終了)
土曜日：10:00～17:00
(16:30オーダー終了)
メニュー（一部）
真鯛のソテー 焦がしバターソース：1,400円（税別）
牛100%ハンバーグ：1,300円（税別）
カラフル野菜のペペロンチーノ：1,000円（税別）
松花堂弁当：2,400円（税別）
クレープアイス包み：600円（税別）

アクセス



※このページをお持ちいただいたお客様にはコーヒー（セットドリンク）をサービス致します。
サービス期間：2017年11月末日まで

オークラカフェ&レストラン
メデイコ

院内探訪
Facility

03

土浦協同病院には様々な施設があります。快適に過ごしていただくための施設から、見つけたらちよっとうれしい「なにか」まで、院内のあらゆるスポットを紹介いたします。

土浦協同病院の 最新機器を用いた先端医療 ～脳卒中・てんかんなどの診断・治療から リハビリテーションまで～

申し込み不要

入場無料

興味のある方はどなたでも参加できます。お気軽にお越しください。

講師・演題

「脳卒中の治療 - 脳梗塞を中心に -」
「頭部外傷の治療とモニタリング」
「脳腫瘍、てんかんの治療」

脳神経外科部長：山本 信二
脳神経外科科長：廣田 晋、芳村 雅隆

「脳腫瘍の放射線治療」 ※11.25(土) つくばのみ
放射線治療科顧問：大原 潔

「脳卒中急性期リハビリテーションの概要と
新しい評価、治療法」

リハビリテーション科部長：岡田 恒夫
リハビリテーション技師部長：橋本 貴幸

日時・場所

11.18(土)

13:00～15:00(受付12:30)

土浦協同病院
2階 大講堂

11.25(土)

14:00～16:00

つくば国際会議場
3階 中ホール 300
午前の部(10:00～)
循環器内科の講座もあります

問い合わせ：土浦協同病院 地域医療連携室 (TEL) 029-846-3682



患者さまの声

→ voice

面会時に首からさげるカードを取りに行く場所がわかりづらい。正面玄関から入ることが多いと思いますが、わざわざ反対側の場所に取りに行くのも大変だし、返却も面倒です。

← answer

ご不便をおかけして申し訳ございません。8月1日より「面会受付」を1階エレベーター前に移動いたしました。また、患者様やご家族のご負担を減らすために、6月19日からは「家族面会証」を発行いたしました。家族面会証をお持ちのご家族の方は面会受付を通らずに病棟にお入りいただけます。お持ちでないご家族の方、一般の方はお手数ですが、面会受付で手続き後、「面会者証」をお受け取り下さい。面会時間は13時～19時となっております。

| 編集後記 |

表紙の写真は、消化器外科のカンファレンスにて撮影しました。他科の医師や看護師も合同で参加し、診療科や職種の垣根を超えた連携を生み出しています。

touch (タッチ) は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所／総合病院 土浦協同病院
編集／病院機関誌委員会 地域連携室
発行人／家坂義人
MAIL／general@tkgh.jp



亀城公園